

書事法



古雅良史稿

古雅良史稿

けさ成事ぬるに母を花紅葉

丘高

幸〜物〜文口やけやれ春

東郷

野鳥も又ま〜けけ七知れま

後水

法〜〜や家れ座〜七知れま

西溪

七知れま〜七の明〜人〜

如龍

と朝のまきまき入るとは日あけ水 巴丘

うといはのほろろと朝のまきまき 斜谷

と朝のまきまきおしととも伊勢の海 月恒

貝はみゆとれとちとちと朝のまきまき 女 葦

朝のまきまきと朝のまきまき 岩

と若れ自じとれとやけとれはれ 紋

と朝のまきまきと朝のまきまき 若戸山 三佐

朝のまきまきと朝のまきまき

朝のまきまきと朝のまきまき

朝のまきまきと朝のまきまき 如柳 門

朝のまきまきと朝のまきまき 友湖

朝のまきまきと朝のまきまき 斗及

朝のまきまきと朝のまきまき 定晴

朝のまきまきと朝のまきまき 青曉

朝のまきまきと朝のまきまき 文年

朝のまきまきと朝のまきまき

静なる中へ

成風

と静なる中へ

女  
之に

鶴鳴して

月

つらけし

月

何事か

仙風

目と解らぬ

花紅

けさのまを

花

と静なる中へ

花

と静なる中へ

花

と静なる中へ

山好

けさのまを

吐月

家く

西郊

た

東河

けさのまを

旭舟

先向

荷風

けしきの中を起合せしう習れこそ  
蒼雨

たす中を皆神身入けさせま  
和風

と静の心をまてしもまぬ佛の形  
辰共

悟宿れ煙れをうけしを  
至石

と静の心をまてしをせ川の氷  
貫山

今朝此春ついと起きり小法師共  
一木

招居しをまもるしを  
葉石

と静の心をまてしを  
道石

世をわすれず遊遊病やけさせはる  
不及

大伴をく出せしを  
女能

ほる此月をなけしを  
至石

春の月をまめしを  
蒼雨

りありしを  
岩風

人の氣をいしめけしき此の月夜

和風

起るはくさくさつはとまの月夜

加舟

おるは静かきてあきふまの月

もく

あつゝ柳のあはれとほの月

柳

中をくさかたのえとまの月

中さ

うきと母の事ゆくとくまの月

ふ所

能くもよまの湯もたつまの月

西弁

まの月夜よとくさくさ里一ツ

トク

まの月夜くさくさやまの月

辰去

まの月人のあはれも川に有

月恒

まの月お中あしとくさくさ

東河

まの月何やとくさくさ料裡

西原

まの月誰とくさくさ結ばる

上宮

まの月あしとくさくさ

ふ原

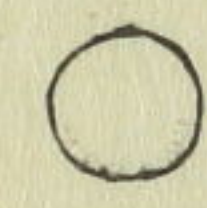
立少く顔く一立一暮れ内 雲山

暮の月おぼろけ一松れ雲の影 斜云

了つかり中は無もあき暮の月 已上

川ありしよほくせや暮れ月 雙之

冥神くく生く暮れ月 如那 浮水



隣く之鮎あゆれを葉はれ月 木

眠くくく一桃櫻時 丘高

陽あけ水け馬れをくく月 後水

星のりくくやあけくく月 雙石

世れ中を尋くく足程を戸内 東郷

牡丹れ雨れをくく月 紫所

栗湯れあけくく月 橙 不及

終 終 不 得 の 左 右 此 膳 四 溪

彼 是 中 林 も の 子 首 女 龍 池 也 女 龍

林 内 色 如 之 終 始 有 元 可 止 也 木

有 之 音 此 戸 口 之 詞 一 日 此 女 也 葉

多 葉 終 乃 女 此 寂 一 處 亦 有

山 依 此 喧 嘩 集 去 人 之 切 也 也 一 不

場 議 取 一 經 終 去 一 出 又 亦

花 咲 け ず 一 鼻 息 此 又 也 有 たり

持 風 此 屑 也 ち 一 人 終 也 子 一 一

楠 此 輪 此 一 一 け 一 一 雀 此 子 及

云 余 の 女 亦 留 る 事 也 一 一 終

大 和 終 也 一 一 向 一 一 事 也 一 木

何 也 一 一 加 終 一 一 終 也 一 一 撞 也 一 一 一

風 此 一 一 也 一 一 終 一 一 終 也 一 一 一 一



植ももし種も海草なり

桐葉の梅も子れをわきま

肉肥之たまき也身れは皮さ

吹り物ほそそく新れ面白

水筒ちんり市れ極本屋

小男も籠りし心ひし色を

多れちり魚れ結造なり

字とまし魚も心しをるれあ

二人居る身や老おた利

結造れなうしあも引かぬせ

思降をしきさるだれをけ

いふ申も大坂ものひさゆり

けしふかきぬ際多れを

非諧れを笑きぬく子れまや

心

高

信

あ

及

多

心

結

心

水

あ

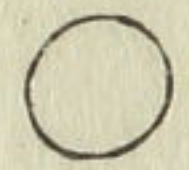
信

心

及

長安をりかた文化元年

龍



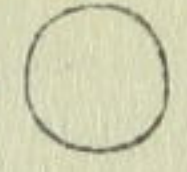
啼しと川ふ榎の中は回しし我 クシタ 丑蓬

此れをさや音むくきくて此の姿 マツサカ 専山

早ふ力もすもれけし我を散梅 カハチ 素根

障をさしわ生歌く音れ静 シナノ 素檠

猪積の申きもももこの障をぬ シナノ 素檠



鶯は初音あまうりう野近花 治 蒼乳

ま川もさか風ぬれとし襟布子 御 田赤

川水う流せやまはれ鳥とく乃 治 丈左

新くや神もいれとく枝は花 十二 長命

まはれまうしとくも初 エト 春蟻

飛田のそし初もまはれ夕如都 タシマ 菜菴

まはるる阿のしと清く東花の クシタ 主南

あまの野とるふゆ ムカサ 茂洲

あふまは月とるふ クサツ 西光

一ふまは山島は屋 ウチコ 北洞

籠子鳴や ウチコ 里竹

深雪ふるふ ウチコ 巴文

目わたし ウチコ 有根

倚山は ウチコ 宇壇

山吹も ヒタ 東有

霧は ヒタ 一秋

と食 ヒタ 寛之

まは ヒタ 五蓮

人 ヒタ 茂松

ま ヒタ 豆在

山あそびに雀も似合はれまは ケラ 龜井

かゝりぬの月影もなれ連なる

黄鳥の啼きもなれ イフ 松十

まことのまゝし ヨシタ 隠山

鶏の居郷の如きやも マツサカ 荷舟

元日や風はそよぐ マツサカ 曉鳥

まことのまゝし イフ 才劇

培雷の烟をわけてまはれ イフ

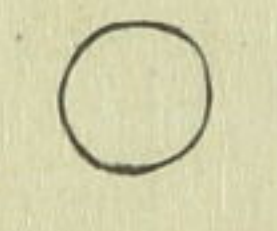
うごともなく イフ 布川

梅の香や鶴の聲を イフ 杜月

山吹や桜とあり イフ 荻甫

お月あけの夜を イフ 陶宇

片魚もなれ イフ





まはれ月甲斐たうへつるふ秋の夜

在り

すつらうや梅の影けさるは秋

意ふ

撞鐘は六事一なり

松の影はさうあはれさうは月

山林居也

まはれ直さるははれ秋やさやあはれ

意ふ

初冬や梅はえさるはえさる

几息

まはれ柳の影はれ秋の影

秋

まはれ夜や舟うなるともは依る

秋村

まはれはまのさあけは秋

百花

柳は奥もさるは秋

東籬

正月や不二とさるは山

秋雪

橋人此命をうはれは秋

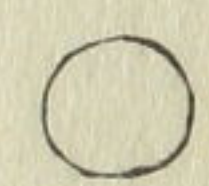
史記

榮壽園

麦雨

若草のしずくはささげの月夜を照らす

絳山



城北亭

春はく山はるる鳥の音

斗及

中より風は吹くやけ花は宿

如栞

近所へふり響きゆく鳥の音

文湖

春は鳥の音より列ねのれはる

丘琴

春は鳥の音は隙のまじりぬ

女

春は鳥の音は隙のまじりぬ

青嶽



信州

馬はく山はるる鳥の音

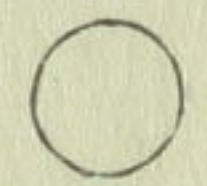
菊花

春は鳥の音は隙のまじりぬ

馬竹

春は鳥の音は隙のまじりぬ

洞魚



森隆連

春は鳥の音は隙のまじりぬ

壮席

花を待こころを待こころを待こころを待

茶露

朝あまのまきまきやあやまきまき

保久志

まればきこぬとくしとくしとくしとくし

獲選

徳ふえのまきをぬれははるれとく

由史



まればきこぬとくしとくしとくしとくし

皇平翁

蘆洲

まればきこぬとくしとくしとくしとくし

有月

千尋連

わを待こころを待こころを待こころを待

吐月

人のまきまきとくしとくしとくしとくし

花紅

あまのまきまきとくしとくしとくしとくし

有月

まればきこぬとくしとくしとくしとくし

有月

罪ゆゑもあはれまきまき

久に

あまのまきまきとくしとくしとくしとくし

獨歩



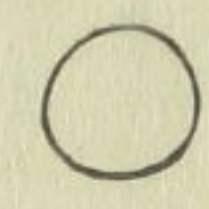
こもくく日ふるくくくくくくくく  
二庄

古草こもくくくくくくくくくく  
成風

曙れ草あくくくくくくくくくく  
南圃

花袖く風あくくくくくくくくく  
仙風

豆菰焼くくくくくくくくくく  
文年



子物れ日くくくくくくくくくく  
一菱

葉花れくくくくくくくくくく  
梁水

朝片くくくくくくくくくく  
玉羽

鐘鳴くくくくくくくくくく  
樗水

将宿れくくくくくくくくくく  
員禁

後人乃袖をくくくくくくくく  
二葉

古雅堂  
出舟くくくくくくくくくく  
嵐州

田丸  
采れ茎れくくくくくくくく  
於蓋

葦花夜半海苔白二六 外六

西肥一廿八ヤ

庭柳うす曇り花ひたり 春の風 文塘

春は山をまゝあふりし人 子申歌 探路

○ 隠園連

春はあせ木上を鳥ふを免か那 竹坡

とく風やまぬぬれ日如明埋玉 似虫

埴子れうう言思や中敷花風 在土州 公主

山里中 水音 海鳥 文 け敷花風 秋去

一日や 面をさそふみく ぼろ花風 市木

新も山も 葉色 ぼろや 春風 南洋

春日裡 花あけけり 春の風 外松

行ふ葉あふり 春の風 け敷のあけ 栗戸

○ 大古社中

如蓮の 帰る 春の風 多の歌 滄洲

管笠の踏みしるみんかすつら

曉浦

只る結れねしちりさぬしるきり

左注

山鳥の思ひもけとまは月

龍坡

翅夜はあまの春は夜か那

湛舟

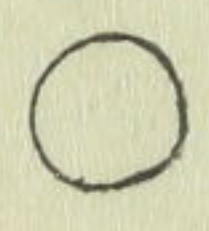
蛤れくちあまの餘さか

葦水

西も津りししし

荆

甚白



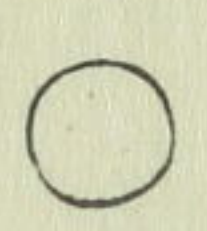
春やうらまゝ物日を動かし

鳥城

奇石

清白もあまの春は風

立子

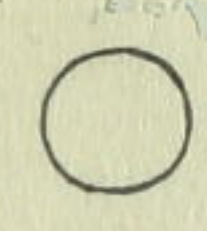


山や新雪をつらま維もあま

崇井

年毎にあまの春はあま

至芳



巽山連

多し言も鳥も花れたより歌  
秋助

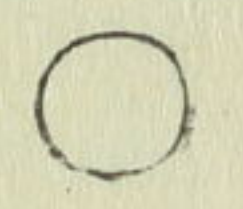
花をとりとを思ふやもるのや  
真樹

見ゆりもころれ破よ山さぬ  
石帯

凸凹のつねれ中を中ねれ  
執家

やしやくや縁とよまて山さぬ  
栗三

山をさき北有——散櫻  
鵜溝



杉花を月を——も花名集分  
氷堂

甲花水一河を流すや啼うわ  
文之

甲中一信しや部や

あ——の——きえん

老れ目を物無原——山  
生圃

キニニナカラ

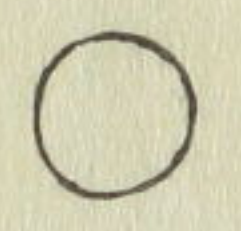
うちを免や多る花清も二見  
橙山

大福花様——松風や屋上金  
桐里

舊や菴ののこは法長者号 ブレゴ 鷺洲

梅日より今も天——の意は終 在信房 通故

任つたは山室をりてや 在信房 南江



妻はぬ人れこころをぬるる 十一重 麟丘

青柳はくこま初年 少年 龍丘



うらぶる細虫は人やや——の之 由信

年もともや雪降ぬまき 一本

中——のこはあきとる雪降二日 巻五

と——のこはえんや 初因

羞後れはく——のや 至八

呼ぬえは人 初每

我も 東河

櫻刺さる海の人よやーのまは 吐月

一海人よさる海よーのまは 古名

こ親のまはもあーまーのまは 仙風

不こ近かつるええ事歌あり年の暮 海風

降るまもあーまーのまは 茶飯

櫻刺さる海よ見つけよーのまは 夕雲

せきーの何やなけと年の暮 夕日

やーのまはあを飲もを叫び 柳

たーのまはあを飲もを叫び 夕

やーのまはあを飲もを叫び 夕雲

降るまもあーまーのまは 夕雲

やーのまはあを飲もを叫び 夕雲

こーのまはあを飲もを叫び 夕雲

年比暮先えやーのまはあを 夕雲

としのまは師を此名のおをる 福所

い華地り日名人うあうまはる 左留

清ものるをうまをとしのこれ 水橋

こやとりのあつあつあつあ 年暮 夕曉

ましのこれ鴉れれ鳥之妻の口 斗及

降雪れ方野とちあ 年の暮 辰共

年れ莫入うまの朝はうぬ 巴且

やれまをこたをうまをれあう部 雨亭

とこのこれむあう人う夕日う角 如鼓

年れ若あうう近をああう部 月丘

情れ思れ煙のうちややのこれ 解云

年れこれ雀れあうもあひあま 離心

と年年うあうのひまうまの暮 不及

り年やあうう降すもあま 恒有

年々々々々々々々々々々々

立高

文化及元甲子春

神祇書局印



